

広報大洲 きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2012 11
No.94

大洲



秋の旬もの つかまえた!

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

河辺中学校1年（現：河辺中学校2年）

森川紫苑さん



私は今、英検や漢検の勉強を頑張っています。将来のために少しでも役に立てばいいなと思います、毎日続けるようにしています。また、大きな声であいさつすることも心がけています。

11月の文化祭では、トロンプーンを担当するので、これからも一生懸命練習に励みたいです。

河辺中学校にいる友達、小学校からずっと一緒に、毎日楽しい時間を過ごしています。また、先生たちの授業はユーモアたっぷりで、勉強が面白いのです。

私の夢は、小学校の先生になることです。そのきっかけになった先生は、今でも私の大きな目標になっています。私も明るくて優しい先生になって、自分の生徒にたくさんのことを伝えられるようになりたいです。

11月の納税など

納期限は11月30日(金)です

税別	11月	12月	1月	2月
市県民税		4期		5期
固定資産税	4期		5期	
軽自動車税				
国民健康保険税	5期	6期	7期	8期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を！

現在の大洲

人の動き(先月比)		交通事故(昨年同期)	
人口	47,516人 (-29)	件数	137件(144件)
男	22,571人 (-19)	死者	1人(1人)
女	24,945人 (-10)	負傷者	161人(176人)
世帯数	20,254世帯(-6)		

(2012年9月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	世界で躍動する 人材育成を目指して(特集)
8ページ～	インスパイア・ジャパン(特集)
12ページ～	シリーズ
14ページ～	おおずニュース
16ページ	まちのわだい
17ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと (柳沢ゲンジボタル保存会)

今月の表紙

picture 写真



9月19日(水)、上須戒の観光いも園を取材しました。

雲一つない秋晴れの下、上須戒地区の保育園児と小学生が、元気よくいも掘りを行いました。

たくさんのいもを前に、子どもたちは満面の笑みを浮かべていました。

世界で躍動する人材育成を目指して

〈大洲市中学生海外派遣事業〉



〔上段〕 上田 清治教諭

〔中段左から〕 亀田 典子校長
紺田早百合さん

濱上 綾さん
高藤美奈子さん

吉岡 知映さん
谷田菜々美さん

山中 春佳さん

〔下段左から〕 谷口 昌宏さん
森川龍太郎さん

山木 隆盛さん
城戸 貴弘さん

服部 綾馬さん

谷口 雄登さん



現地では、ホストファミリーの家庭でホームステイをしながら、さまざまな交流を行いました。

平成24年度も市内9校、12人の中学生が、7月27日(金)～8月10日(金)の日程でオーストラリアのケアンズに出発しました。

これは、中学生を海外に派遣することにより、異国の文化、歴史、経済、生活習慣および国民性の違いを肌で感受させ、その体験を通して国際的な感覚の涵養かんようと視野を広めさせることにより、国際化時代にふさわしい人材を育成することを目的にしています。

大洲市では、次代の大洲市を担う中学生を対象に、「大洲市中学生海外派遣事業」を実施しています。

「平成24年度大洲市中学生海外派遣事業」での感想を紹介します



大洲南中学校 紺田^{きゆうり}早百合さん

外国の人と交流することが楽しく、言葉が通じた時は本当にうれしかったです。

また、異国の文化を学ぶことで、日本の文化の良さを改めて知ることができました。

この海外派遣は、私にとって最高の思い出です。

大洲南中学校 服部^{りょうま}綾馬さん

ホームステイ先では、ホストマザーとその子どもたちが温かく迎えてくれて、家族のように過ごせました。多くの人のサポートのおかげで、楽しく充実した日々を送ることができました。



大洲北中学校 谷口^{ゆうと}雄登さん

海外派遣事業を通して、オーストラリアの文化や自然に触れ、その良さを知るとともに、日本の良さを再発見できました。また、伝えようとする気持ちがあれば、「言葉の壁」を乗り越えることができると分かりました。

大洲北中学校 吉岡^{ともえ}知映さん

オーストラリアでは、文化の違いや自然の大きさ、人々のフレンドリーなところなど、多くのことを感じる事ができました。必ずいつかもう一度、オーストラリアを訪れたいです。



平野中学校 谷口^{まさひろ}昌宏さん

不安だった英語も思い切って会話をしてみると、英会話が楽しく感じられるようになりました。この海外派遣で、人と人との繋がりに国境はないということを学ぶことができました。

肱東中学校 城戸^{たかひろ}貴弘さん

ホームステイすることで、オーストラリアの文化を学ぶことができ、現地の英語を体感できました。帰国してから、もっと英語を勉強して、きちんと会話ができるようになりたいと強く思いました。



新谷中学校 高藤^{みなこ}美奈子さん

最初は、英語が聞き取れるか不安でしたが、ホストファミリーはとても優しく、きちんとコミュニケーションをとることができました。ホームステイでは、生活文化の違いも見つけることができ、とても充実した2週間でした。





大洲東中学校 山中 ^{ほるか}春佳さん

海外派遣で特に思ったことは、私たちが楽しめるよう、関わり合いを持つ現地の全ての人が、いろいろと心配りをしてくれたことです。これからも、たくさんの国々の人たちと、分け隔てなく心を通わせていきたいと思います。



長浜中学校 濱上 ^{りょう}綾さん

異国の文化を肌で感じるにより、日本文化の素晴らしさに気づくことができました。また、英語が十分に話せない私に、積極的に話しかけてくれるオーストラリアの人たちから、心から相手と向き合う大切さを学びました。



長浜中学校 山木 ^{りゅうせい}隆盛さん

海外派遣への参加は、異文化に親しみ、日本との違いなどを生活の中で実感できる貴重な体験となりました。また、地元の小学校での体験は、日本では得ることのできない、かけがえのない思い出となりました。



肱川中学校 谷田 ^{ななみ}菜々美さん

ホストファミリーとの生活や現地の小学校での交流など、たくさんの思い出ができました。今回の海外派遣では、いろいろな人と交流することができ、また、自分の英語の実力を試すことができました。



河辺中学校 森川 ^{りゅうたろう}龍太郎さん

オーストラリアでの会話は、学校で習っている英語とはイントネーションや発音が少し違っていました。周囲の人が分かりやすく教えてくれたのが、うれしかったです。この経験は、僕が英語で話す上で、とても大きな一歩となりました。



「出会い、笑顔…、そして感謝」

脇川中学校 校長 亀田 典子のこ

ケアンズは、本事業の派遣先としては初めての地ということでしたが、とても素敵な町でした。気候も良く、観光スポットやショッピングを楽しめる所も多くあり、何より、そこに住む人たちがとてもフレンドリーなのです。ホストファミリー、語学学校や交流学校の先生たち、生徒のみなさん、見学先の人たち、町の人。みんなとても親切で朗らかで、出会いのたびに感動をもらう毎日でした。

そんな温かい雰囲気の中で、派遣生たちは実に元気に毎日を心から楽しみ、笑顔いっぱい過ごしました。

派遣生たちを受け入れてくれたウィットフィールド・ステイト・ス



クールは、音楽やスポーツ、表現活動など、一人ひとりの才能を伸ばすことに力を入れています。さよなら集会では、高学年が見事なパフォーマンスを見せてくれました。我が派遣生たちも大洲市のはつぴを着て、力のこもったソーラン節を披露しました。伸び伸びと表現することの素晴らしさを、派遣生たちは体で感じ取れたように思います。このことを、ぜひ、それぞれの学校で伝えてほしいと思います。

「伝えたい気持ちと、分かってもらう気持ち、そして笑顔があれば言葉の壁は乗り越えられる。Smile is Best language！」

これが二週間の海外生活で得た最大の学びでした。

派遣生たちが今回の貴重な体験を基に、国際社会、国を越えた共生社会の一員として、それぞれの夢に向かって進んでくれることを切に望みます。

そして、中学生の若い力を信じてこの事業を継続してくださる大洲市、大洲市教育委員会並びに公益財団法人樹山教育振興会に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



7月27日(金)～8月10日(金)までの15日間、「大洲市中学生海外派遣事業」として、引率の先生2人と、市内の中学生12人の合わせて14人が、オーストラリアのケアンズを訪れました。

ホストファミリーと対面後、生徒それぞれが各ホームステイ先へ向かい、滞在期間中、ホストファミリーの家族と生活を共にしました。

現地では毎朝8時過ぎに語学学校に集合し、2時間程度、英語の授業を受けた後、「ウィットフィールド・ステイト・スクール」(州立の小学校)に移動し、小学生と一緒に授業を受けました。

学校では、派遣生1人に「スクールバディ」(日本の生徒たちの補佐役)2人が付き添い、一緒に過ごしました。

学校では日本語をはじめいろいろな教科の授業があり、派遣生たちはランチタイムも共にするなど、英会話を通して地元の子どもたちとコミュニケーションを図りました。

また、派遣生たちは、ケアンズ市内の遺跡、各種施設(消防署、警察署など)の見学などを行い、日本との違いについて学習しました。

休日になると、派遣生たちはホストファミリーと終日過ごし、観光の名所に案内してもらうなど、異国の文化に触れることができました。

「オーストラリア海外派遣を終えて」

肱川中学校 教諭 上田 清治せいじ

オーストラリアで過ごした日々は、派遣生はもろろん、私にとってもかけがえのない素晴らしい体験・思い出となりました。

派遣生たちはオーストラリアの雄大な自然や文化、ホームステイなど、日本とは違う環境に、最初は戸惑いもたくさんあったと思います。

英語しか通じない環境の中で、相手の言動を理解し、自分の意思を伝える努力を繰り返すことによって、日々成長していく派遣生たちの姿を見ることができました。

その成長の要因として、派遣生たちの努力はもちろんですが、ホストファミリーをはじめとする素晴らしい人たちとの出会いを忘れてはならないと思います。私自身、今回の海外派遣でさまざまな国の人たちと出会い、交流を深めることができました。これらの出会い、交流こそが最高の思い出を作り、豊かな経験を積みきっかけになったのだと思っています。

今回の海外派遣を通して、派遣生たちの口から出てくる、ごく自



然な英会話を聞いていると、あいさつや意思伝達などの重要性を改めて感じました。細かい文法や間違いを恐れることなく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢がある限り、英語を使って世界中の人たちと仲良くなれると確信しました。一人の英語教師として、今後、この経験や喜びを生徒たちに伝え、さらに英語学習に積極的に取り組む生徒を育てていくことが、私の使命だと思っています。

今回、家族のように旅を共にした十二人の派遣生のみなさんの、さらなる活躍と成長を期待しています。

大洲市中学生海外派遣事業は、公益財団法人 榊山教育振興会の支援の下、平成10年度から実施していて、今年度で第15目を迎えます。

その間、延べ132人の中学生が海外へ派遣され、見聞を広めました。

現代の日本人にとって、国際的なセンスと感覚を身につけることは、とても大切なことです。

また、今回、多くの派遣生たちが語ってくれたように、異文化に直接接触することで、改めて日本の文化との違い、日本文化の良さを再認識するなど、海外派遣は貴重な経験を積む場となったようです。

4～5ページに、派遣生たちの海外派遣に関する感想の一部を掲載しました。派遣生たちが発見したこと、思ったこと、感じたこと。ここでは掲載できないほど数多くの経験・体験により、派遣生たちは大きく成長したのではないかと思います。

この経験が、派遣生たちの将来の礎になりますように。

世界に羽ばたく人材、世界で躍動する人材育成を目指して。大洲市では、今後も中学生海外派遣事業を継続して実施していきます。

